



令和4年9月29日

報道関係者各位  
ご取材用資料

## 館林市立資料館 特別展

## 「徳川ゆかりの道—日光脇往還をゆく」開催のお知らせ

館林まつりのメイン会場として親しまれる本町通りは、とても由緒のある道だということをご存知でしょうか。今からおよそ400年前の元和3年、その前年に亡くなった徳川家康を、久能山から日光東照宮へ改葬するため、家康の霊柩を含む行列がこの道を利用しました。以後、この道は「日光脇往還」と呼ばれ、江戸と日光を結ぶ重要な交通路となりました。大名の参勤交代や日光参詣だけでなく、飛脚や庶民の往来などあらゆる人びとがこの道を利用し、街道周辺も発展していきました。

しかし、近年では、都市計画などに伴い、この街道の景観は刻一刻と変化しており、その由緒を実感する機会は減少しました。

本展は、この街道の歴史や変遷を紹介し、改めて人と地域をつなぐ街道の役割とこれからのまちづくりを考えるきっかけづくりを趣旨としています。

また、あわせて2つのワークショップを実施します。(詳細は別添チラシ参照)

会 期：令和4年10月1日(土)～11月23日(水)

主 催：館林市教育委員会

会 場：館林市第一資料館

(館林市城町3-1 館林市立図書館内)

休 館 日：月曜日(10/10を除く)、祝日の翌日(10/11(火)、11/4(金))

図書館月末整理日(11/27(木))

開 館 時 間：午前9時から午後5時(入館は4時30分まで)

入 館 料：無 料

展 示 解 説 会：10/2(日)、10/10(月)、10/28(金)、11/6(日) 午前11時～

\*直接会場へお越しください。

## 問い合わせ

- 館林市教育委員会 文化振興課
- 〒374-0018 館林市城町3-1
- 担 当 橋本
- 電話 0276-74-4111
- FAX 0276-74-4113

## 主な展示予定資料

- |                     |            |                         |
|---------------------|------------|-------------------------|
| ■徳川家康像              | 栃木県立博物館蔵   |                         |
| ■東照宮御祭礼絵巻           | 栃木県立博物館蔵   |                         |
| ■館林城下町絵図            | 個人蔵(青山家文書) | ※館林市指定文化財※              |
| ■旧谷越町神輿(天王祭で渡御したもの) | 本町二丁目西区蔵   |                         |
| ■秋元久朝 日光社参絵巻        | 当館蔵        |                         |
| ■水戸藩主徳川斉昭自筆の和歌      | 新郷宿本陣須永家蔵  | ※羽生市指定文化財※              |
| ■川俣関所の制札            | 川俣関所番士石川家蔵 |                         |
| ■秋元但馬守家中印鑑          | 川俣関所番士石川家蔵 | ※埼玉県指定文化財「川俣関所関係文書」の一部※ |
| ■飛脚装束               | 郵政博物館蔵     |                         |
| ■八王子千人同心の火事場装束      | 八王子市郷土資料館蔵 |                         |
| ■封内経界図誌(青柳村部分)      | 当館蔵        | ※群馬県指定文化財※              |
| ■館林まつりの衣装           | 館林市職員共済会蔵  | などおよそ100点               |



「日光祭礼絵巻」(部分) / 栃木県立博物館蔵

### 関連ワークショップ

#### 古文書解読講座

10/16  
(日)

時間  
14:00~15:30

場所  
文化会館3号室

定員  
30名

講師 坂本達彦氏  
(國學院大学栃木短期大学教授)

#### 日光脇往還を歩こう

11/3  
(木祝)

時間  
集合 9:30~2 時間程度

集合 / 解散場所 日有り  
中部公民館 玄関前  
(館林市仲町 14-1 旧市役所)

定員  
15名

講師 小林正夫氏  
(館林市文化財保護審議会委員)

申込み受付: 9/17~

※定員になり次第終了

TEL (0276)74-4111 へ電話か、  
文化会館窓口・第一資料館受付に  
直接お声がけ下さい。

#### 展示解説会(申込不要)

10/2(日)、10/10(月祝)、  
10/28(金)、11/6(日)  
▶11:00~ 30分程度

### 館林市第一資料館

館林市城町 3-1(館林市立図書館内)

# 日光脇往還をゆく 徳川ゆかりの道

館林市立資料館 特別展



「徳川家康像」  
/ 栃木県立博物館蔵



飛脚の法被、  
腹掛 / 郵政博物館蔵



御用箱  
/ 郵政博物館蔵



千人頭着用の陣笠  
/ 八王子市郷土資料館蔵



「館林遠見取絵図」(館林町部分) / 東京国立博物館蔵  
(Image:TMN Image Archives)  
※本展では複製のみの展示

入館無料

令和4年

10月1日 土

11月23日 水祝

開館時間: 9:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日: 月曜日(10/10を除く)、10/11(火)、10/27(木)、11/4(金)

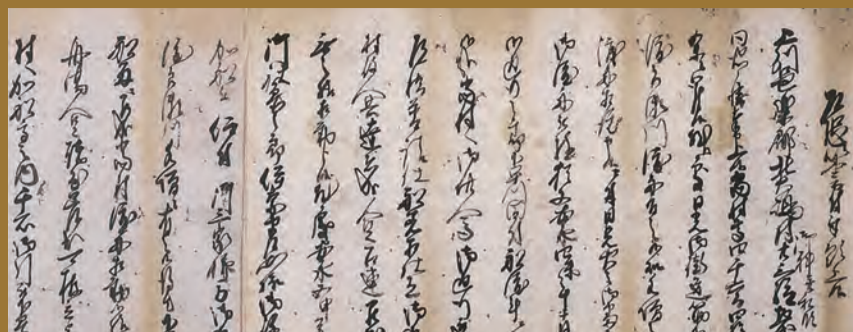
問合せ: 館林市教育委員会文化振興課 館林市城町 3-1(館林市文化会館) TEL(0276)74-4111

主催: 館林市教育委員会





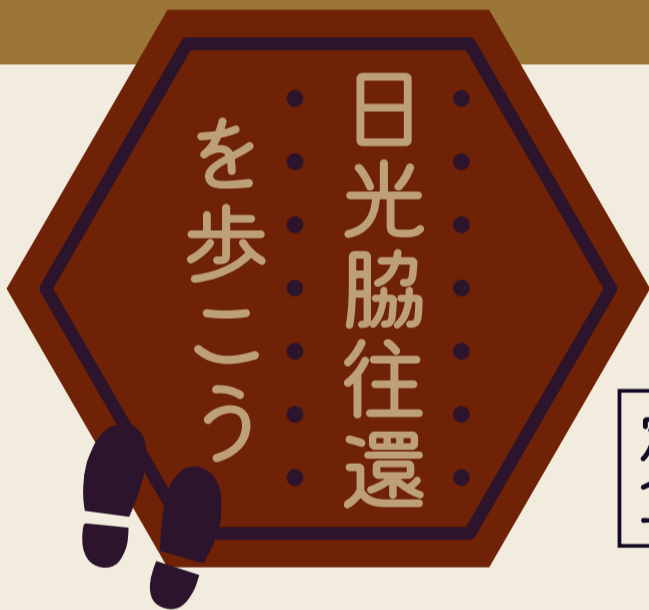
特別展で展示されている古文書を講師とともに読み解く講座です。江戸時代の古文書を身近に感じていただくとともに、当時の日光脇往還の通行や助郷制度についての理解を深めていただければ幸いです。[対象資料(右写真):北大島村渡良瀬川渡船役難渋につき助郷免除願書(部分)]



10/16 (日)  
定員 30名

時間 14:00~15:30  
場所 文化会館 2F 3号室 (館林市城町 3-1)  
講師 坂本達彦氏 (國學院大学栃木短期大学教授)

城下町内の「日光脇往還」を、講師とともに歩く講座です。実際に目で見て、肌で感じていただくことで、近世から現代にかけての街道の由緒や街並みの変化についての理解を深めていただければ幸いです。[右写真:令和4年度七夕祭りの様子]



11/3 (木祝)  
定員 15名

時間 集合 9:30~2 時間程度  
集合 / 解散場所 中部公民館 玄関前 [P]有リ (館林市仲町 14-1 旧市役所)  
講師 小林正夫氏 (館林市文化財保護審議会委員)

申込受付 9/17(土) ~

申込みは (0276)74-4111 へ電話か、文化会館窓口・第一資料館受付に直接お声がけ下さい

※ 定員になり次第終了

令和4年 10.1 [日] ▶ 11.23 [水祝]  
館林市立資料館 特別展  
徳川ゆかりの道—  
日光脇往還をゆく

館林市第一資料館

開館時間: 9:00~17:00 (入館は 16:30 まで)  
休館日: 月曜日(10/10を除く)、10/11(火)、10/27(木)、11/4(金)






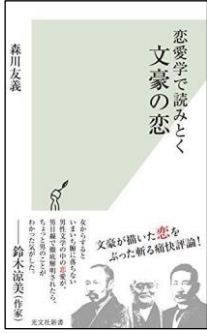
交通案内 (文化会館まで)

- 東武伊勢崎線「館林」駅下車、東口より徒歩約 15 分
- 東北自動車道「館林 IC」から車で約 10 分

おねがい

- マスクの着用、手指消毒など感染防止対策にご協力ください。
- 発熱や体調不良の方は、ワークショップ参加や入館をご遠慮ください。
- 作品保護のため、一部照明を落としております。ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。

プレスリリース		館林市教育委員会文化振興課
報道関係者各位 ご取材用資料	令和4年9月 29 日	
展 示 名	<b>田山花袋記念文学館 特別展</b> <b>「花袋大解剖ーみんなが気になる花袋のアレコレー」</b>	
会 期	令和4年 10 月 22 日(土)～令和4年 12 月 11 日(日) 42 日間 (休館日をのぞく) 休館日：月曜日、11 月 4 日(金)、11 月 24 日(木)	
会 場	田山花袋記念文学館 企画展示室 (住所：館林市城町 1-3)	
開催の趣旨	<p>田山花袋は、明治大正期に自然主義文学運動の旗手として活躍し、「上毛かるた」に「誇る文豪」として詠まれる群馬県を代表する作家です。しかし、近年では出版状況の変化に伴って文庫本の絶版が相次ぎ、花袋という存在や花袋の作品に触れる機会は減少しています。こうした状況の中、当館では来館者アンケートを実施し、花袋に対する興味関心の所在の把握に努めてきました。</p> <p>本展では、アンケートをもとに、みなさんが花袋について疑問に思っていることの中から多く寄せられた意見を抽出し、主に次の6つのテーマに沿って取りあげます。《1 館林での少年時代の暮らし》《2 博文館での仕事》《3 「蒲団」再考》《4 夫・父として》《5 花袋を取り巻く女性たち》《6 親友・柳田国男との交友》というそれぞれのテーマにおいて、みなさんの疑問に答えながら、特にこれまで広く知られていなかった部分に焦点を当てて紹介します。</p> <p>展示を通じて、花袋の新たな一面を発見し、花袋とその作品についてさらなる理解を深めるきっかけとしていただければ幸いです。</p>	
展 示 内 容	<p><b>■導入</b> 花袋のプロフィール帳(性格や好物、特技などを記入した等身大パネル)</p> <p><b>■Chapter 1 館林時代～長ちゃんと録ちゃんの交友から</b> Q. 館林でどんな風に暮らしていたの？吉田陋軒の「休々草堂」はどこにあったの？ 花袋の詩的情緒をはぐくんだ館林での暮らしを紹介。漢学塾の師・吉田<sup>よしだろうれん</sup>陋軒や親友・進藤長作とのエピソード、ゆかりの地など。</p> <p><b>■Chapter 2 博文館での仕事～「文章世界」学校の校長先生</b> Q. 博文館でどんな仕事をしていたの？ 博文館での花袋の大きな仕事のひとつに、明治 39 年 3 月創刊の雑誌「文章世界」がある。花袋が編集長を務め、全国の文学青年に対し小説指導を行った。当時の投稿雑誌のなかで最高級品といわれた「文章世界」での花袋の教育的指導内容と、輩出した作家との交友を紹介する。</p> <p><b>■Chapter 3 「蒲団」再考～恩は恩、怨みは怨み</b> Q. 「蒲団」の背景を教えて！モデルはその後どうなった？ 明治 40 年 9 月に雑誌「新小説」に掲載された「蒲団」は、赤裸々な内容とモデル問題によってたちまち話題となった。本章では、「蒲団」は果たして事実か？という問いを立て、作品</p>	

	<p>を事実と同一視する読み方が生まれた背景とも照らし合わせながら再検討する。また、モデルとされた岡田美知代のその後の活躍と、師・花袋への複雑な心境も紹介する。</p> <p>■Chapter4 夫・父として～煩わしいほど賑やかな父</p> <p>Q. 奥さんと花袋の家族について知りたい！夫婦の出会いのきっかけは？ 妻・里さや次男・瑞穂、その他代々木の家を訪れた作家の証言をもとに、家庭人としての花袋の素顔に迫る。</p> <p>■Chapter5 花袋を取り巻く女性たち～不良老年・花袋</p> <p>Q. 花袋の女性関係をもっと詳しく知りたい。 「伯父さんは不良老年よ」とは、花袋の青年期からのミューズであり、花袋の最期まで親交を重ねた姪・神田アイの言葉である。アイのほかにも、花袋作品を彩った女性たちと花袋の関係を紹介する。</p> <p>■Chapter6 柳田国男と花袋～相合へりし我と君</p> <p>Q. 『抒情詩』の仲間、新体詩時代の花袋について。 今年で柳田国男没後 60 年を迎える。花袋と国男は生涯の親友であり、40 年にわたる交友の軌跡を紹介する。</p>
入館料	<p>【一般個人】220円【一般団体】110円(20名以上)【中学生以下無料】 ただし、家庭の日(11/6・12/4)と群馬県民の日(10/28(金))は入館無料</p>
展示解説会	<p>家庭の日(11/6・12/4)と群馬県民の日(10/28(金)) 14:00から30分程度</p>
関連事業	<p><b>講演会「恋愛学で読みとく田山花袋「蒲団」」</b></p> <p>『恋愛学で読みとく文豪の恋』(2020、光文社)の著者が、今まで言及されてこなかった「蒲団」の新たな魅力について講演します。</p> <p>■区分 共催事業(文化振興課&amp;図書館)</p> <p>■とき 令和4年12月3日(土)13:30~15:00(開場 13:00)</p> <p>■ところ 三の丸芸術ホール(館林市城町 1-2)</p> <p>■対象 一般</p> <p>■定員 250名</p> <p>■講師 <small>もりかわともり</small> 森川友義さん(早稲田大学国際教養学部教授)</p> <p>■参加費 無料</p> <p>■持参する物 眼鏡等(パワーポイント資料の投影があります)</p> <p>■申込み方法</p> <p>(1)館林市文化会館(74-4111)・図書館(74-2346)のカウンターで直接申込みもしくは電話。</p> <p>(2)ぐんま電子申請受付システムで事前申込。</p> <div style="text-align: center;">  <p>スマートフォン用二次元バーコード→</p> </div> <div style="text-align: right;">  <p>著者近影</p>  <p>書影</p> </div>
問い合わせ	<p>【担当】館林市教育委員会 文化振興課 文化財係 主事・小林里穂 Tel : 0276-74-4111 (内線 661、662) Mail : bunka@city.tatebayashi.gunma.jp</p>



## 特別展

# 花袋 大解剖

みんなが  
気になる  
花袋の  
アレコレ

10/22 |土| 2022 → 12/11 |日|

[開館時間] 9:00~17:00 (入館は16:30まで) [休館日] 月曜日、11/4(金)、11/24(木)

[入館料] 個人: 220円 団体: 110円 (中学生以下、障がい者手帳持参および介助者1名は無料)  
※ 群馬県民の日(10/28(金))、家庭の日(11/6(日)、12/4(日))は無料

展示解説会 (入館無料) 10/28(金)、11/6(日)、12/4(日) 14:00~30分程度

記念講演 恋愛学で読みとく田山花袋「蒲団」

▶ 2022年12月3日(土) 13:30~15:00 (開場13:00) ◀

会場 / 館林市三の丸芸術ホール  
(館林市城町1-2/TEL:(0276)75-3030)

講師 / 森川友義氏 もりかわともり (早稲田大学 国際教養学部教授)

定員 / 250名 【入場無料】

申込方法 受付開始 / 10月22日(土) 9:00~

ぐんま電子申請受付システムまたは  
館林市文化会館(0276)74-4111へ電話  
(定員となり次第終了)

申込QR



『恋愛学で読みとく文豪の恋』(2020.光文社)を刊行された森川先生が、これまで言及されてこなかった「蒲団」の新たな魅力について講演します。

## 田山花袋記念文学館

〒374-0018 群馬県館林市城町1-3 / TEL:(0276)74-5100